

令和6年12月10日

業務完了報告書

鳴門教育大学教員教育国際協力センター

石坂 広樹

1. 案件の概要

(1) 案件名

(和文) 令和6年度国別研修エルサルバドル「初中等算数・数学教育における学力評価に基づいた学びの改善」

(英文) Improvement of Mathematics Learning based on the Result of Evaluation Process in Primary and Secondary Education

(2) 研修履行期間 令和6年10月15日～令和7年1月31日

(3) 研修期間 令和6年11月17日～令和6年11月29日

(4) 研修員数 10名

2. 研修内容（添付）

(1) 案件全体概念図

(2) 単元目標毎のカリキュラム構成

(3) 日程表（単元目標と関連付けたもの）

3. 案件目標（アウトカム）と単元目標（アウトプット）の達成度

(1) 案件目標（アウトカム）

「エビデンスに基づく学習改善の視点から日本の教育制度を理解し、エルサルバドルの教育制度に応用できる点を見出す。」

指標： 研修員が本邦研修終了時に構築した学力調査制度・附属学校・カリキュラム・教科書の活用に係るアクションプランなどを提出し、研修後に研修員によって所属組織の中で共有される予定になっている。

達成度： 提出されたアクションプランなどにおいて、上記内容が明記されていることが確認された。

(2) 単元目標（アウトプット）

単元目標①： 日本において、教育成果向上を目指し、どのように全国学力・学習状況調査の結果やその他の教育調査の結果が活用されているのかについて理解する。

指標： 研修時の発表・提出において、教科別の講義や県教育委員会による講義に対する質

問・コメントが提示される。その内容作成に当たって研修員の携わり方・貢献度について4段階評価でB（やや優れている）以上。

単元目標②：日本において、教育調査結果を活用してどのように教材、特に教科書が開発されるのか、そのプロセスについて理解する。

指標： 研修時の発表・提出において、教科書会社・教材会社による講義に対する質問・コメントが提示される。その内容作成に当たって研修員の携わり方・貢献度について4段階評価でB（やや優れている）以上。

単元目標③：教育成果の向上を図る上で、日本の大学附属学校が果たす役割と機能について理解する。

指標： 研修時の発表・提出において、各種附属学校での視察や懇談会において質問・コメントが提示される。その内容作成に当たって研修員の携わり方・貢献度について4段階評価でB（やや優れている）以上。

単元目標④：上述の①～③を達成しつつ、日本における教育成果の向上を目指した取り組みを参考にして、エルサルバドルにおけるカリキュラム・教科書作成に係る取り組みの改善を図る施策やプログラムを計画する。

指標： 研修終了時のアクションプランの提出において、学教育成果の向上を目指した取り組みを参考にして、エルサルバドルにおけるカリキュラム・教科書作成に係る取り組みの改善を図る施策案やプログラム案が提示される。その内容作成に当たって研修員の携わり方・貢献度について4段階評価でB（やや優れている）以上。